



第 21 期
広報誌



ま ら め き

2025 Vol.4



C O N T E N T S

卒業に寄せて / 自治会長挨拶 / 学園 NEWS / 課題研究発表会 / 自主企画バス旅行
学部フリーページ / 懐かしの 60 年代 / これから挑戦したい事 / 編集後記



学長
森田 光一

卒業に寄せて

第21期生の皆様、ご卒業、誠におめでとうございます。

皆様は、きらめき市民大学の学生として2年間、本学の基本理念である「豊かな心・あふれる元気・きらめく個性」を実践し、講義や課外活動に積極的に参加され、多くの経験を積まれました。また、ともに切磋琢磨し、固い絆を育んだ学友たちの存在は、皆様にとって何物にも代えがたい貴重な財産となることでしょう。この学び舎を巣立った後も、豊かな人生を歩まれることをご期待いたします。

卒業生の皆様には、本学での学びを活かし、是非とも地域のリーダーとして、これからも東松山市の更なる発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、卒業生の皆様の今後ますますのご活躍を祈念申し上げます。



自治会長
西村 俊輔

自治会長挨拶

光陰矢の如しと申しますが、入学して早や2年が経ちました。盛況であった学園祭、四苦八苦した課題研究、楽しかったスポーツ大会や修学旅行も今となっては良い思い出です。

これらもすべて学生の皆様のご協力、チームワークがあったからこそ、成功させることができ、懐かしく思い起こせるのでしょう。自治会を代表して、改めて感謝いたします。

また、学長、副学長、市議会議長、そして理事長と理事の皆様、そして事務局の皆様には、ことあるごとに温かい励まし、ご指導、ご支援をいただきました。この場を借りて深く感謝申し上げます。

さて、我々の学びは卒業して終りではありません。大学で学んだ成果を、実学として市中で発揮するのはこれからです。皆様、健康に留意しつつ、更に成長して次の世代につなげてゆきましょう。

学園NEWS

消防訓練

9月6日、二学期初日に消防訓練が実施されました。東松山消防署松山北分署よ



り3名の隊員の方が来校し、指導に当たってくれました。最初に講堂で映像を見ながら火災のメカニズムや消火の心得などを学び、消防署への通報を実際に行ないました。その後、各教室に移動して避難誘導訓練。前庭に集合し、各学部より数名の人が参加して水消火器による消火訓練を行ないました。今回、初めて起震車による地震体験を実施。震度5の強震では皆さん顔を強張らせ、強震では身動き出来ない

怖さを感じた様です。いつ起こるか分からない火災や地震などの災害に対し、日頃から十分な準備をしておく事の大切さを学びました。



グラウンドゴルフ大会

10月2日、大岡運動場にてグラウンドゴルフ大会を開催しました。昨年は雨天中止となり、別日に有志参加によ



る競技会を行いました。今年は天候にも恵まれ総勢68名が参加し、それぞれの腕前を競い合いました。

A・Bの2コース 2時間余りの競技の結果、伊藤勉さん（くらし）がスコア39（ホールインワン1回）で優勝しました。第2位は福田國臣さん（くらし）、第3位は清水茂さん（国際）、第4位は同率で関口茂さん、土井時彦さん、根津貞雄さん（以上、歴史）の3名でした。

競技終了後は、隣接する大岡活動センター



にて、昼食会と表彰式が行われ、入賞者へは記念品が贈呈されました。

スリーデーマーチパレードに参加

初日の降雨とはうって変わって好天に恵まれた11月4日最終日、およそ20人のきらめきメンバーと共にパレードに参加しました。新明小学校からスタートした一行は、先頭に大学名の書かれた数本ののぼりを掲げ、意気揚々とゴールの中央会場、松山第一小学校の校庭を目指しました。駅前からは、沿道の声援や和太鼓の演奏に歓迎されながら、気持ち良く歩けました。所々で、きらめきの学生たちに声を掛けられたり、カメラを向けられたりしながら、とても楽しいウォーキングでした。少しだけ、



ヒーローになった気分を味わえました。来年は皆さんも参加してくださいね。



歴史・郷土学部
柴田 博

生涯学習の実践作文 受賞にあたって

昨年、(公財)日本教育公務員弘済会埼玉支部主催「人生を豊かにする生涯教育の実践作文」の募集案内が学内に掲示された。丁度、ムサシトミヨ飼育の課題研究に取り組んでおり、『小さな水族館から発信したいこと』と題してチームが未知の中で味わった感動や挫折の記録を織り込んで応募した。先日、思いもよらず優秀賞を戴き、活動資金の獲得もチームの励みになった。近日冊子として県民や県内教育機関に配布が予定されており、絶滅危惧種ムサシトミヨを多くの人に知ってもらうきっかけとなれば大きな成果である。今後は、学内の小さな水族館から生まれた子供達が新たな生命を宿すことを目指している。



課 題 研 究 発 表 会

2月9日(日)東松山市民活動センターホールで、第21期生による課題研究発表会が行われました。

来賓の学長、理事長を始め、22期生や大勢のお客様も訪れて、大変盛況な発表会となりました。

各学部とも今までに無いユニークな研究に、観客の方々も熱心にご覧になり、2年間の学業の成果を遺憾無く発揮することができました。



国際・文化学部

A 班

鎌倉街道の調査・研究



B 班

東松山市とアジア・エスニック料理



くらしと健康学部

A 班

健康寿命を延ばす



B 班

比企のそば



歴史・郷土学部

A 班

歴史・郷土の宝探し



B 班

ムサシトミヨを育てる



自然とアートを満喫！箱根への旅路

11月13日7時半にきらめき市民大学を出発、目指すは箱根である。狭山サービスエリアで1回目の休憩後、恒例のビンゴゲーム大会が始まった。今回は皆んなに自宅の不用品を寄付してもらい、それを賞品とする趣向。最初に「ビンゴ!」の声を



も飛び交う中、何とか全員に賞品が渡って一斉に開封。女性用のハンカチやパンストを男性がゲットしたり、悲喜こもごも。楽しいビンゴゲームだった。



く芦ノ湖に到着。海賊船を模した遊覧船に乗る。デッキに出て記念撮影をしたり、色づき始めた山並みを眺めたり、箱根を満喫。



発したのは私(伊藤)だった。次に栗原さん、猪さんと続く、旅行幹事や役員ばかりである。「八百長だ~!!」の声



だった。

11時頃、仙石原を通過。真っ白なススキの穂が風に揺れ壮大な景色に感動。間もな



お腹も空き始めた頃、桟橋にほど近い和風レストラン



で昼食。本日のメニューはワカサギと鶏そぼろ御膳。ボリューム満点で美味しかった。昼食後、

近くの箱根神社まで徒歩で参拝。長い参道を登り、やっと社殿に着いた。無病息災・家内安全を祈願して下山。



本日最後の見学コースは箱根彫刻の森美術館である。近・現代を代表する

彫刻家の作品が広大な敷地に点在している。有名な彫刻群を巡り写真を撮りまくる。ピカソ館にも足を延し、しばしアートを堪能。ここで一番印象深かったのは彫刻ではなく休憩所で食べたソフトクリームだった。



4時丁度に箱根を後にした。途中、土産物屋に立ち寄り沢山のお土産を買い込む。帰りのバスの中では漢字のとんちクイズやイントロクイズで大いに盛り上がった。5問以上正解した人には賞品のお菓子と共にクイズマイスターの称号



が無事きらめき市民大学に到着。とても楽しいバス旅行だった。伊藤 勉

が与えられた。帰路の2時間半はあっという間で、夕方6時半頃、



令和6年11月13日
快晴の東松山市を8時



出発、最初に群馬県のながめ公園で関東菊花大会を見学、菊の見事な展示と公園からの眺望に感動



しました。
いちばん
楽しみにし
ていた渡良
瀬溪谷鉄道
トロッコ列
車。列車が



来るまでの間レトロな駅で
記念撮影。

汽笛を鳴らしながらゆっ
くりとトロッコ列車がホー
ムに着く。窓ガラスが無く

外の空気や景
色が肌身で感
じられた。溪谷
沿いに山に向
かって進みト



ンネルに入ると列車
の天井に青白いイル
ミネーションが点灯、
あちこちから歓声が
聞こえた。



トンネルを抜
けるとそこには
綺麗な川が流れ、
山は薄紅葉。

足尾駅に到着、
日光で湯葉料理
の昼食を堪能し
て大谷石資料館



へと向かいました。石採掘場跡は1917年から70年
間採掘された巨大な地下空間、天井が高く広い空
間は幻想的で壁面
には手掘の跡が生々
しく当時の苦労を伝
えていました。現
在はコンサートや
映画撮影、



結婚式などに利用されて
いるそうです。

楽しい時間も終わり添
乗員さんのトークと、ビ



ンゴゲームに盛り上
がり帰路につきました。

お天気にも恵まれ
とても楽しい一日でした。

長島 悦子



雲蝶と絶景に出会う…新潟の旅

晴天に恵まれた
11月13日、関越道を
新潟に向けて出発
しました。

車中では10月27日に開催された学園祭のアトラ
クションのDVDを視聴し、大盛り上がりの内に最



と、大きく描かれた
一羽の孔雀と牡丹
が印象的な『襖絵』
や海辺の美しい景
色を障子上に表現

した『書院障子』など、彫刻以外にも様々な作品が



埋め尽くされていま
す。中でも圧巻なの
は、三間四方の吊り
天井に、透かし彫り
で施された大彫刻
『道元禅師猛虎調伏

の図』です。立体感と色彩の鮮やかさには賞賛の声
しかありません。残念ながら、内部の写真撮影は一
切禁止なので、ご興味のある方は是非ご自身の目
でお確かめになって下さい。



披露されています。
そして、左の写真が幕
末1857年に建立された
開山堂。屋根は茅葺き二
重層で、正面には雲蝶の
彫刻が施されています。
雪から御堂を守る為、平
成11年に覆い屋根が出
来ました。堂内に入ると、
天井から欄間、壁面に至
る全てが雲蝶の作品で



お昼は新潟名物の
「へぎそば」でした。
揚げ立ての天ぷらがセッ
トでボリューム満点、完食
出来ずに一部
はおみやげと
して持ち帰る
ことに。その
後、道の駅に
立ち寄りおみ
やげを購入
し、最終目的地の清津峡トンネルに到着。



清津峡は黒部峡谷・大杉
谷と共に日本三大峡谷の
一つで、国の名勝・天然記
念物に指定されています。



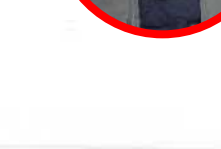
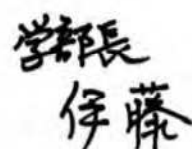
そばの美味しさ、
清津峡の絶景を学部仲間達と
一緒に楽しんだ
一日として、皆
の思い出に残る
ことでしょう。
笛木 喜代子

全長750mのトンネルの先にあ
る絶景写真スポットが大変な
人気を集めており、私達もその
絶景を写真に収めて来ました。

石川雲蝶の彫刻の世界、へぎ







感謝
国際文化

[illegible]

'24.9/18 学園祭学部紹介用に撮影



'23.6/21 授業風景



'24.5/14～15 修学旅行「会津」の旅



'24.11/13 自主企画「新潟」の旅



ある方に担がれ、お引受けした学部長のお役でしたが、クラスの皆さんに応援して頂いたお陰で、最後までやり切ることが出来ました。多くの方々との素晴らしい出会いに感謝です。今村 和文



くらしと健康学部 岩岸 順一
小学4年生の頃獅子舞の逸子(はやしっこ)を踊っている写真

私ども西二地区の獅子舞の歴史は、鎌倉時代までさかのぼり、その時から始められたと伝えられています。私はお菓子やお小遣いにつられて、小学3年生から中学1年まで5年間も踊り続けました。



くらしと健康学部 加藤 君子
中学1年生 校庭の桜の木の下で

中1の時、給食が無くアルミで出来た弁当箱を皆んな新聞紙に包んで持ってきました。冬になると木の枠で出来た入れ物に、クラス皆んなの弁当をのせて当番4人で暖飯器が置いてある所まで運び、温めて食べた事が懐かしい思い出です。

くらしと健康学部 水島 和子

春、裏山でやっと頭を出した福寿草を探す。掘り出して庭に植え替え(春よ来い)と願う。黄色の花は春の色。短い夏は家の裏を流れる川で水遊び。山から流れ来る川の水は夏でも冷たかった。秋、稲や大根の収穫の手伝い。刈り取った後の田んぼで姉とキャッチボール。そして長い冬。スキー板を担いで近くの小高い丘へ。新雪が深く積もると我が家の畑もスキー場。斜面の端を登り一番高い所から一直線。真っすぐな何本もの線に満足して家路につく。北海道赤平市。四季が豊かだった私のふるさと。子供の頃が懐かしい。



くらしと健康学部
平野 雅子
30代の頃、野尻湖・黒姫高原に遊んだ時の1枚です

1960年代は、30歳代で働きながらの子育て真っ最中。保育園と職場の往復で多忙な明け暮れでしたが、車の運転免許も手に入れてブルーバードでカメラを提げて、折りを待っては家族旅行を楽しみました。

くらしと健康学部
松山 孝基
昭和25年正月妹との写真



私の生まれは鹿児島県奄美大島の喜界島です。子供の頃の思い出は2里も離れた小学校に2時間かけて歩いて通ったこと。時間があると美しいサンゴ礁の間を魚達と一緒に泳いだことです。東京に出て来て驚いたのは喜界島で一緒に泳いでいた魚達が、デパートで熱帯魚と称し高額で売られていた事でした。

国際・文化学部

伊達 穂積
3歳の頃、姉達と一緒に七五三の写真



私は昭和22年生まれ。小学生時代は貧しくとも楽しく明るく元気でまさに黄金時代。メンコ、ビー玉、パチンコ、大井川での六尺ふんどし水泳。春夏秋冬、日が暮れるまで遊びました。映画は月光仮面、赤胴鈴之助、鞍馬天狗、3本立てで弁当持ち、洋画は西部劇。我がワンス・アポン・ア・タイム(昔々)です。

国際・文化学部 大木 孝明

私の60年代は小学6年から高校3年くらい、あの頃も今と変わらず小学校は集団登校でしたが、見守り活動は無く、私はよく遅れて1人登校、交通量も少なくのどかでした。勉強より遊びが得意で、学校から帰ると近所の子供達と遊びまわりました。その頃は高度経済成長期、オリンピック、大阪万博と日本が右肩上がりの良い時代でした。写真は1964年東京オリンピックのイメージです



国際・文化学部 吉原 泰子
高1の学園祭にて(向かって右)

「若い娘がウッフン! お色気ありそでウッフン!」自作のドレスでボンボンを振りながら、当時流行っていた「黄色いサクランボ♪」を歌って踊った、懐かしい思い出の1枚です。

私達はこんな時代を生きて来た！

国際・文化学部
清水 茂
高校生の頃、
黒山三滝にて
(写真右)



60年ほど前、東松山の悪ガキ3人で夏休みに川越に遊びに行った。映画、パチンコ、喫茶と、気が付いたら電車が無く、駅待合室の木製イスで寝ることに。そこには大きな麻袋を持った50代位の浮浪者風の先客がいた。朝、牛乳配達の声で目が覚めると、そのおじさんが「これを飲んで」と牛乳を3人に手渡してくれた。その美味しさ、優しさは今でも忘れられません。

国際・文化学部 新井 美代

子供の頃、両親・祖母・姉二人・私の6人家族だった。小学校低学年の頃の私は虚弱児童で、よく姉たちに面倒を見てもらった。そんな環境で育ったせいか、今でも私の回りには年上の方々が大勢いらっしゃる。皆さん良い人達で、困った時には貴重なアドバイスをしてくれる。本当にありがたい。しかし近年、高齢のせいか諸先輩方も時折揉める事がある。そんな時、私が仲裁に入り問題を解決する。こんな私も少しずつ人生経験を重ねてきた結果かな？



国際・文化学部 西村 晃

小学6年生の遠足(左から2番目)

1964年クラスの友人達と放課後に岩室観音へ行き、脇の崖を登って遊んでいたら、1人が崖から落下して足を骨折してしまった。その年の鎌倉・江の島への遠足では、クラスの仲間達が交代で彼を支えながら歩き、楽しい1日を過ごしました。

歴史・郷土学部
今村 和文
6歳、幼稚園の頃母と



1963年生まれの子。幼少の頃、庭先に咲くチューリップの花を指差して「おかあさん、チューリップがあくびしてるよ」と言って母を驚かせた。また、当時は汲取り便所の時代、あの独特な臭いを放つ清掃車がやって来ると「うんぴり屋さんだあ〜」と大声で走り回っていた事も。

歴史・郷土学部
出口 寿子
写真は小6の修学旅行



父が公務員ということもあって、小学校中学校は2〜3年ごとに転校していました。当時新潟県の高田市(現上越市)に住んでいて、修学旅行は新潟市。空港で初めて飛行機を間近で見ました。写真は先生が撮ってくださったもの。この後も転校を繰り返して、東松山に至ります。

歴史・郷土学部
西村 潤
足摺岬でのスナップ



北陸福井に住んでいた高校時代、仲間と3人で四国一周の旅をしました。宿泊はユースホテルとテント泊でしたが、3月の小豆島寒霞溪でのテント泊はあまりにも寒く一睡もできず。ホテルは当時食事付1泊600円程でしたが、今は10倍の6,000円超になっているようです。

歴史・郷土学部
大嶋 邦江
高2、網走原生花園にて



高校2年生の夏休みに、北海道の網走に住んでいた姉夫婦の元へ一人旅をした。広島を立ち、大阪から日本海を急行列車にゆられて青森へ。青函連絡船や列車を次々に乗りかえ、二昼夜かけて網走に着いた。60年も前には飛行機と言う選択肢はなかった。あの時の度胸が懐かしい思い出だ。

歴史・郷土学部
柴田 博
中学3年生、自宅にて



出生数が極端に少なかった終戦間際の生まれ。お陰で各入試の競争率も低く、割と楽な人生を歩み始めたが、60年安保の影響で学校閉鎖が続く、大学時代は勉学に励んだ記憶があまりない。その穴埋めか、今になって学校通いが続いているのかもしれない。

歴史・郷土学部
笛木 喜代子
1960年、小学校の入学式の写真(後列右)



給食が1年の2学期から始まり、母親達が当番で担当していました。土曜の午後は授業が無く、学校で習字を教えてくれました。4年生の時週刊少女フレンドが創刊され愛読、表紙は島倉千代子、学校で配布されました。肝油ドロップも学校で販売していて毎月買っていました。

北海道から沖縄まで一人で気楽に…

私が挑戦したいのは「一人旅」です。勿論、素敵な景色を仲間や友人、夫婦で共有し、詠嘆し合い、美味しい食事を前に会話を楽しむ事も旅の醍醐味と思っています。ですが、自分と対峙し、五感を刺激するクリエイティビティの向上に繋げる積極性を身に付けたいのです。そう、私には「積極性」が皆無ですから…これこそ最大の挑戦です。その為にはコストを工夫し、歴史、文化を下調べする。様々なイベント等の情報にもアンテナを張り、楽しむ事をモットーに旅をしたいと思っています。そして、積極性を身につけてこそそのボランティア活動で、人や社会にご恩返し出来たら幸せです。そこで様々な分野の方々と繋がりを持てたらと願う、人生 100 年時代の私の小さな夢です。

くらしと健康学部 新井 清美

大空を舞うって、どんな気持ち？

私は子どもの頃から、かなりのお転婆で、いつも膝小僧が赤チンで赤かったのを覚えています。大人になっても高い所が大好きで、20年前、筑波山でパラグライダーの1日コースに参加しました。山を全速力で駆け下りた後に、ふわりと身体が浮き、風に包まれる気持ちの良さは、今思い出してもワクワクします。でも、残念ながら、仕事と家庭の多忙さで続けることができませんでした。その時、スカイダイビングなら、この何倍もの爽快感だろうなと思いました。次の挑戦は、20年来憧れてきたスカイダイビングで大空から舞い降りることです。



国際・文化学部 竹花 宏子

卒寿過ぎても気持ちは二十歳のままで

クラスの最長老だった私が思う卒業後の挑戦は、以下の通りです。一つは「趣味の開拓」。書、絵画等の他、自宅に50年も鎮座している娘のピアノを活用すること。次に「積読（つんどく）の解消」。きらめき大学での講義内容の復習と、本棚を占領している全集等を読破すること。そして「見学旅行」。新聞広告等に掲載されている地域や、県立の旧制中学（7校）を見学し、地域貢献に活かしたい。やはり最大の挑戦は「健康長寿を

目指し、人生を楽しむ」。近所の病院長(高校の後輩)からの『100歳を目指して頑張れ』との激励に応えることです。

歴史・郷土学部 関口 茂



歌い続け、離島の旅へ

私は旅行が趣味で、若い頃からよく海外に出かけていました。しかし、65歳を過ぎて挑戦し、達成した喜びを味わったのは、キリマンジャロ登山とイースター島・ガラパゴス諸島の旅など外国僻地への旅行でした。

傘寿を迎える歳となって、東松山市政70周年記念の祝祭で「第九合唱」と「歌劇椿姫の乾杯」を外国語で合唱した時の感動は格別でした。これからもあの感動を得られるように歌い続け、時々離島への僻地旅に挑戦したいと願っています。今年は、健康で強い体力を第一にして、サンタルチア（イタリア語）を独唱し、奄美諸島の旅に行き、私の人生下り坂最高！の感動と達成感を得る挑戦を続ける予定です。

国際・文化学部 井上 正夫

編集後記

皆さんの協力で4冊を発刊、充実した2年間でした。最終号は、卒業後ふと開いた時に懐かしと思える紙面を目指しました。最後に広報委員会のメンバーを紹介致します。くらし：伊藤勉、川上和彦、久保益金、国際：高橋剛、竹花宏子、西川恵子、歴史：岡崎邦彦、中田逸子、屋代一夫、今村和文、皆さんお疲れ様でした。

